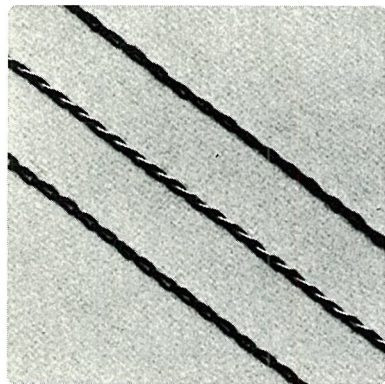


チェーンステッチ

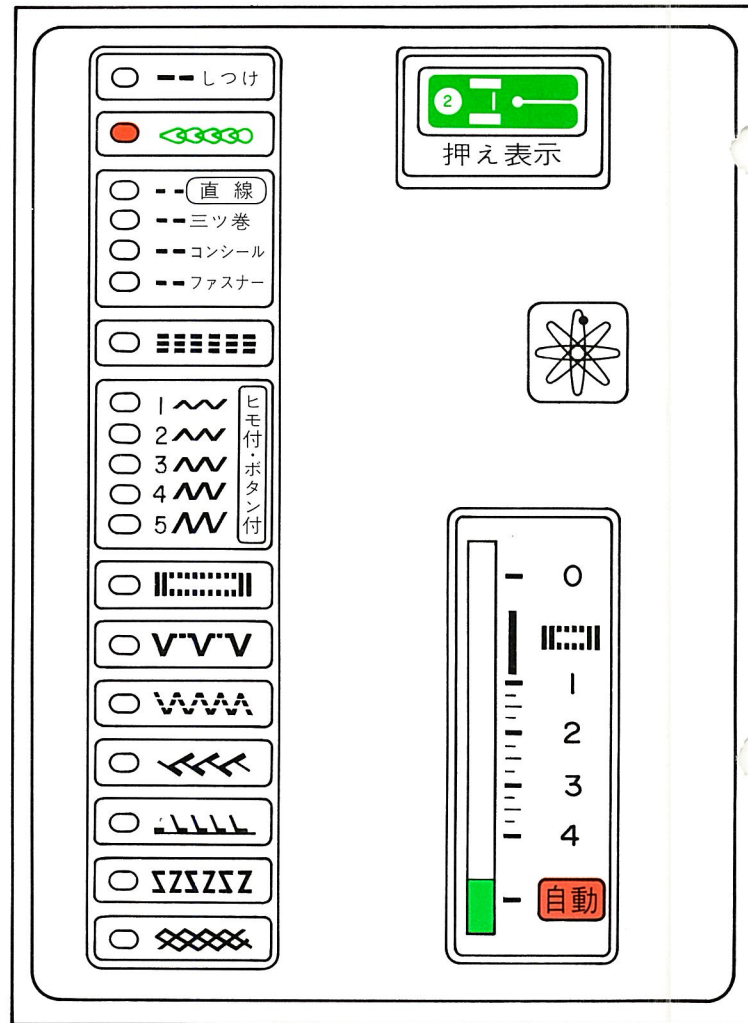
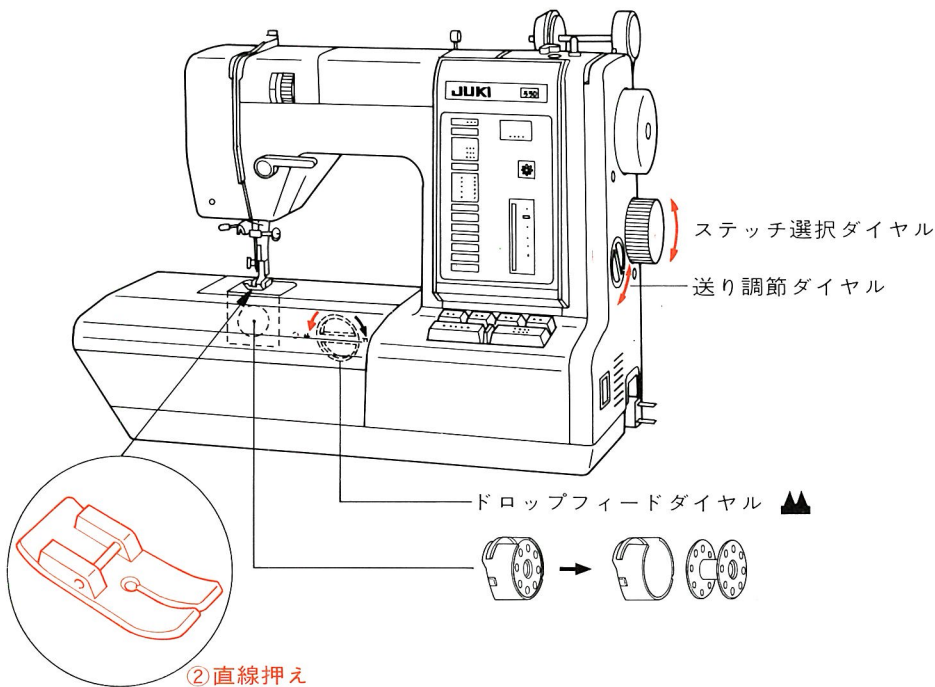
このマシンでは、チェーンステッチとロックチェーンステッチの2種類ができます。特に、下糸のはいつたロックチェーンステッチは、ニットやジャージーのような伸縮性をもった布地の縫いに最適です。



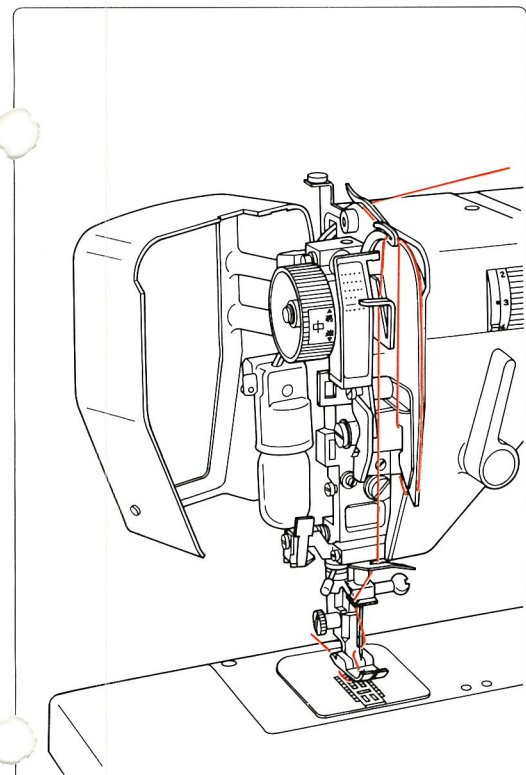
(1)セットのし方

- ①チェーンステッチの糸かけにします(上糸)。
(チェーンステッチの糸のかけ方は27ページ)
- ②ステッチ選択ダイヤルを **<3333>** に合わせ、押え表示窓に表示された **2** の押え金を使います。
- ③送り調節ダイヤルを回し **自動** の目盛を選びます。
- ④ドロップフィードは **▲** に合わせます。

※自動糸切りは使用しません。

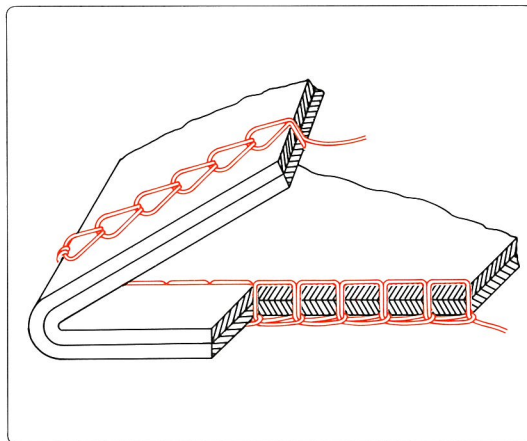


(2) チェーンステッチの糸のかけ方



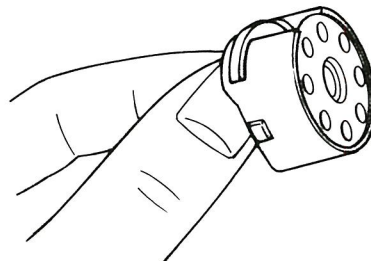
面部カバーを開いて天秤からチェーンステッチ糸かけにかけます。

チェーンステッチ

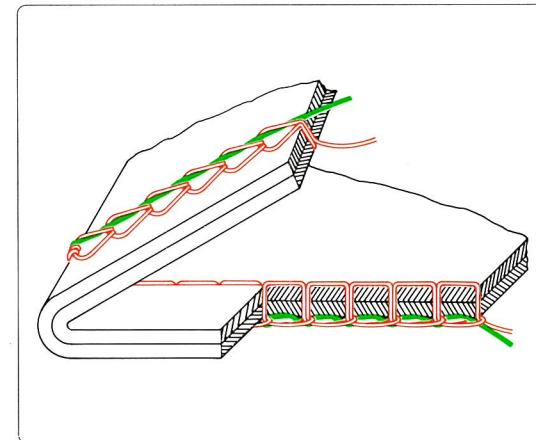


(3) 縫いの準備 チェーンステッチの場合

下糸はボビンケースより出ないようにボビンに巻き込んでおくか、ボビンをはずして使用します。(下糸は使いません)

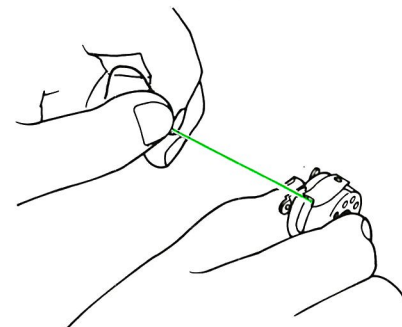


ロックチェーンステッチ



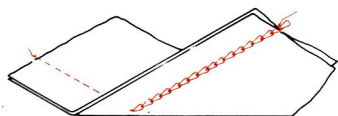
ロックチェーンステッチの場合

下糸は直線縫いジグザグ縫いの場合と同じように糸端をボビンケースより10センチほど引き出しておきます。(下糸を使います)



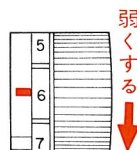
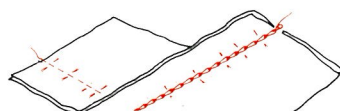
(4)糸調子について

正しい糸調子



最適な糸調子はループが平らで、滑らかなループができます。

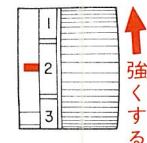
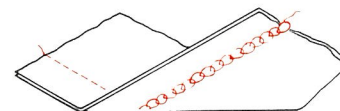
しめすぎ



弱くする

糸調子が強すぎると、布地にしわがよったりしめつけられたループができます。ダイヤルを矢印の方向へ回して弱くします。

ゆるみすぎ

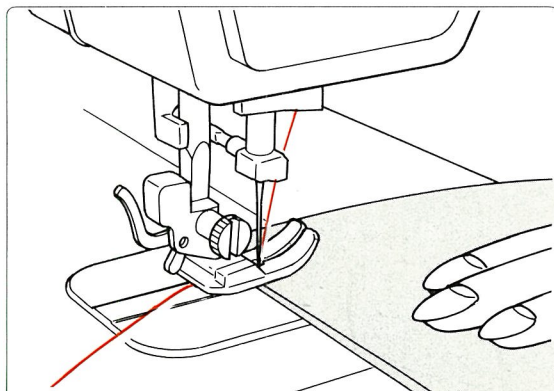


強くする

糸調子が弱すぎると、不規則な大きなループができます。この場合はダイヤルを矢印の方向へ回して糸調子を強くします。

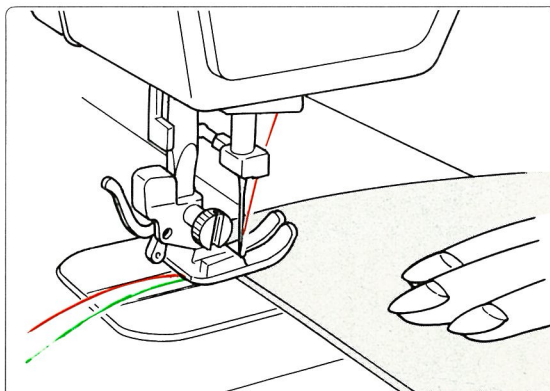
(5)縫い方

チェーンステッチの場合



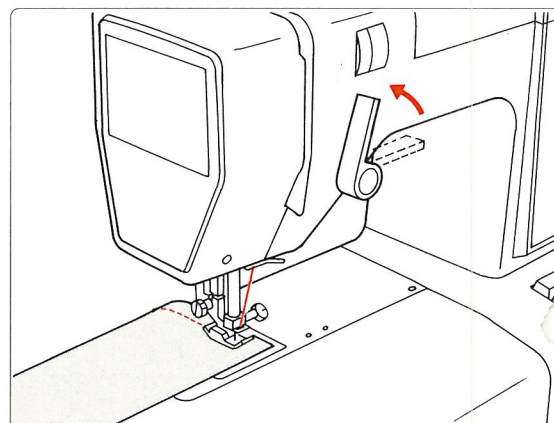
- ①上糸を押えの下より向う側に15センチほど出します。
- ②針を上げておき、布地を押えの下におきます。
- ③はずみ車を手前に回して、布地のできるだけ端に針を刺します。
- ④押えを下ろして縫い始めます。

ロックチェーンステッチの場合



- ①上糸と下糸をそろえて、押えの下より15センチほど出します。
- ②針を上げておき、布地を押えの下におきます。
- ③はずみ車を手前に回して、布地のできるだけ端に針を刺します。
- ④押えを下ろして縫い始めます。

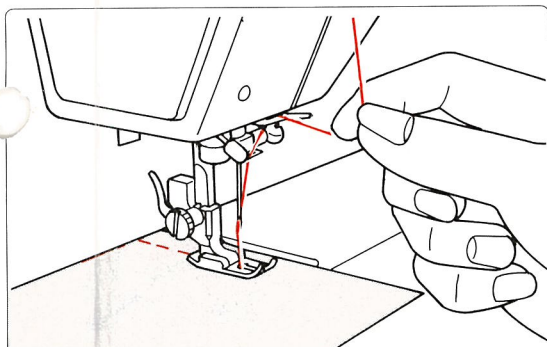
(6)縫い方向の変え方



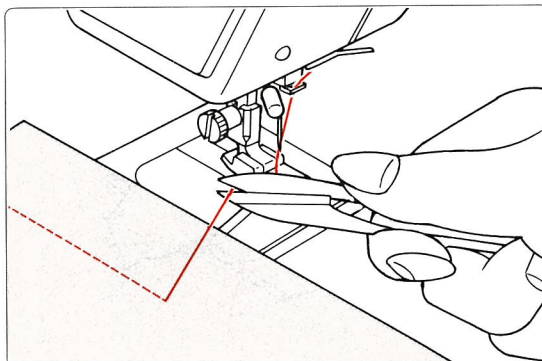
- 布地の角を縫うときや、縫い方向を変えるとき
- ①針は必ず布地に刺して針が上がってきたとき針穴が布地からわずか出た位置で止め、押えを上げます。
 - ②針を中心に布地を回して方向をきめます。
 - ③押えを下ろして縫い始めます。

(7) 止め縫いと布地のはずし方

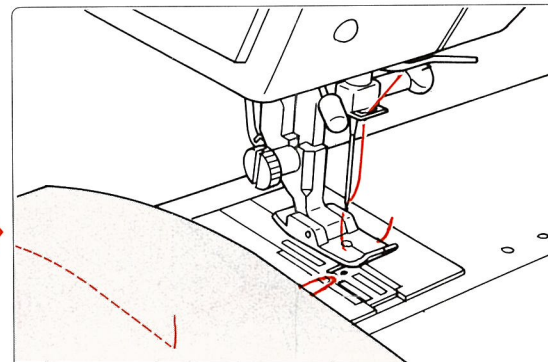
縫い途中のとき



① 針位置を最高にし、押えを上げ、針棒糸かけの近くの糸を引き出します。

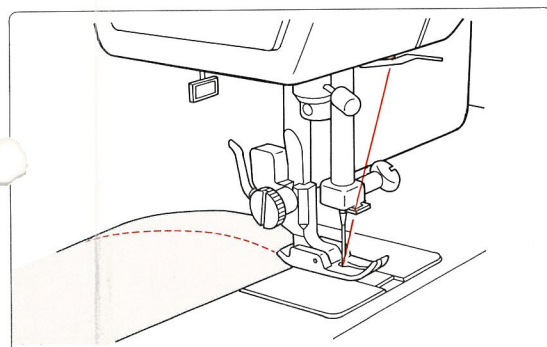


② 縫い目の終りの近くをはさみで切ります。

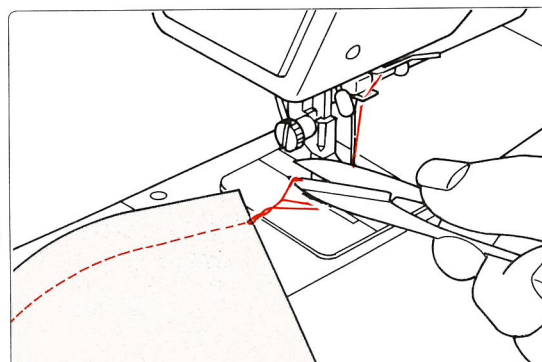


③ 布地を左側へ引き出しますと、自然にほつれ止めになります。

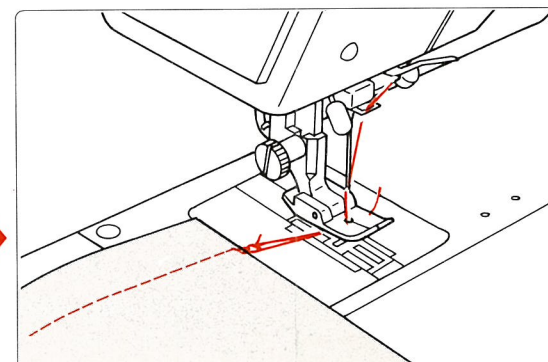
縫い終りのとき



① 布端まで縫い終って、布端から1～2針縫います。



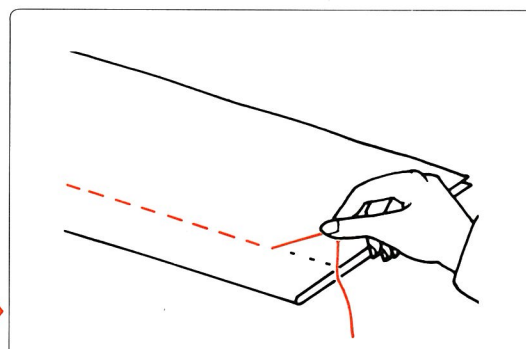
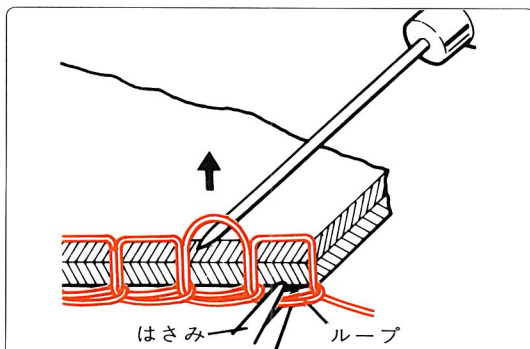
② 押えを上げ縫い目の終り近くをはさみで切ります。



③ 布地を左側へ引き出しますと、自然にほつれ止めになります。

(8)縫い目のほどこ方

チェーンステッチの場合

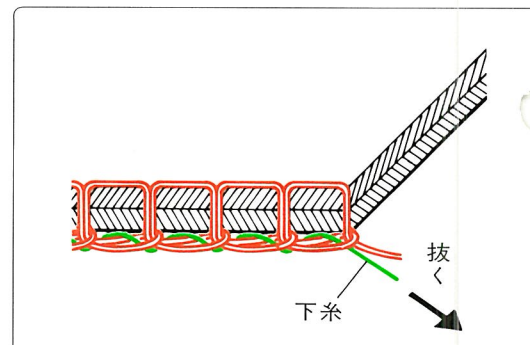


①縫い目をほどくには、布地の裏側にできた最後のループをはさみで切ります。

②切った糸端を布地の表側に引き出します。
③その糸端を引っ張れば縫い目は簡単にほどけます。

※縫い終わった方向からほどかないとほどけません。

ロックチェーンステッチの場合



①下糸を引き出し、抜き取ります。
(下糸はループとからみ合っていないので簡単に抜けます。)
②下糸を抜き取ったあとはチェーンステッチの場合と同じです。

(9)チェーンステッチの応用

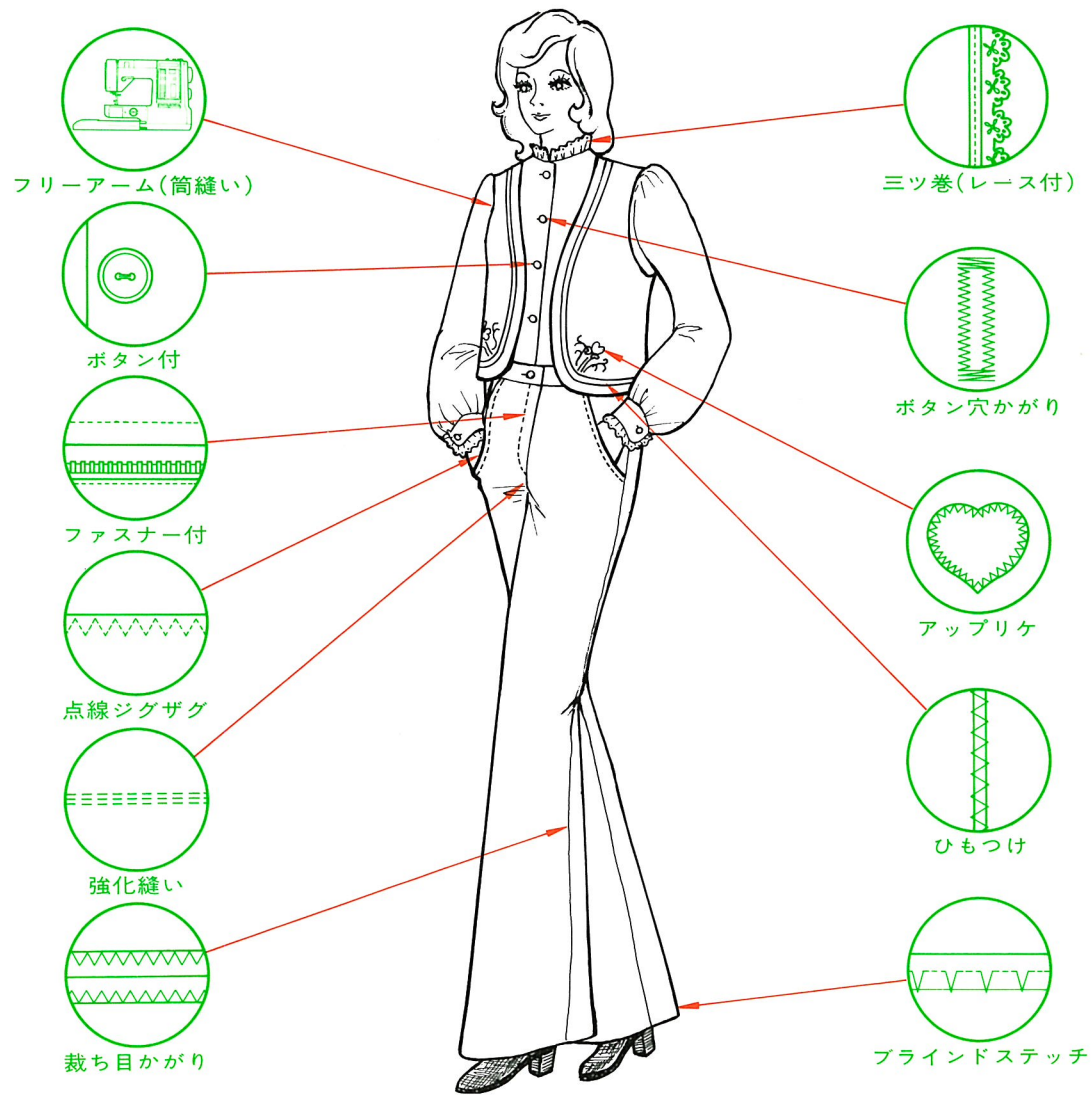
※簡単にほどけやすい縫い目ですから、替えカラー、カフス、座ぶとんカバーなど、たびたび取り外しするものの裁縫や、洋服、ブラウス、シャツなどの仮縫い、また、和服、その他、寝具などのようにほどくこともある裁縫に使用すると便利です。

※伸縮性に富んだ縫い目ですからニットやジャージーなどの伸び縮みする裁縫に便利です。

※縫い目がくさり状になっているので縫い目が美しく、衿、エプロン、ポケットなどの飾り縫いに裏目を利用することもできます。

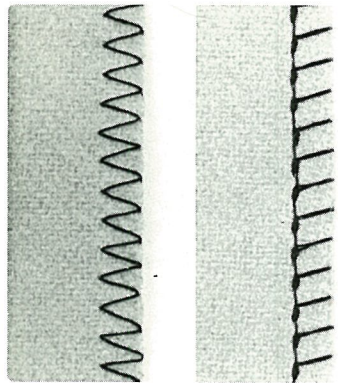
いろいろな縫い方

直線縫いはもちろんのこと、しつけ縫い、ボタン付、ボタン穴かがり縫い、筒縫い、アップリケ、ブラインドステッチなどいろいろな縫い方が簡単にできます。



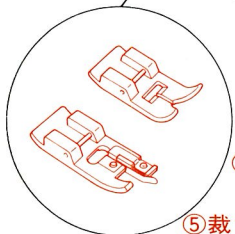
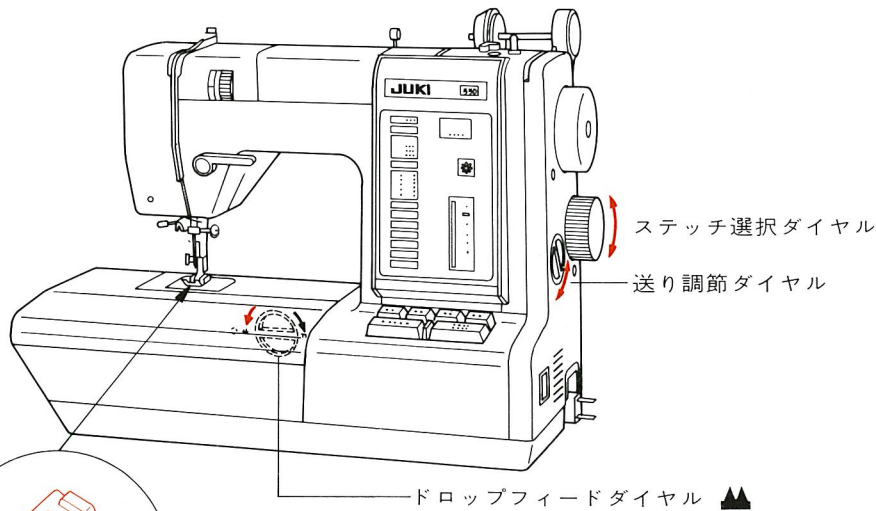
裁ち目かがり・フェザーステッチ

布地の裁ち目がほつれるのを防ぐため、ジグザグ縫いをします。
このとき、裁ち目かがり押えを使うとき裁ち目を巻き込むことなく、きれいに縫うことができます。



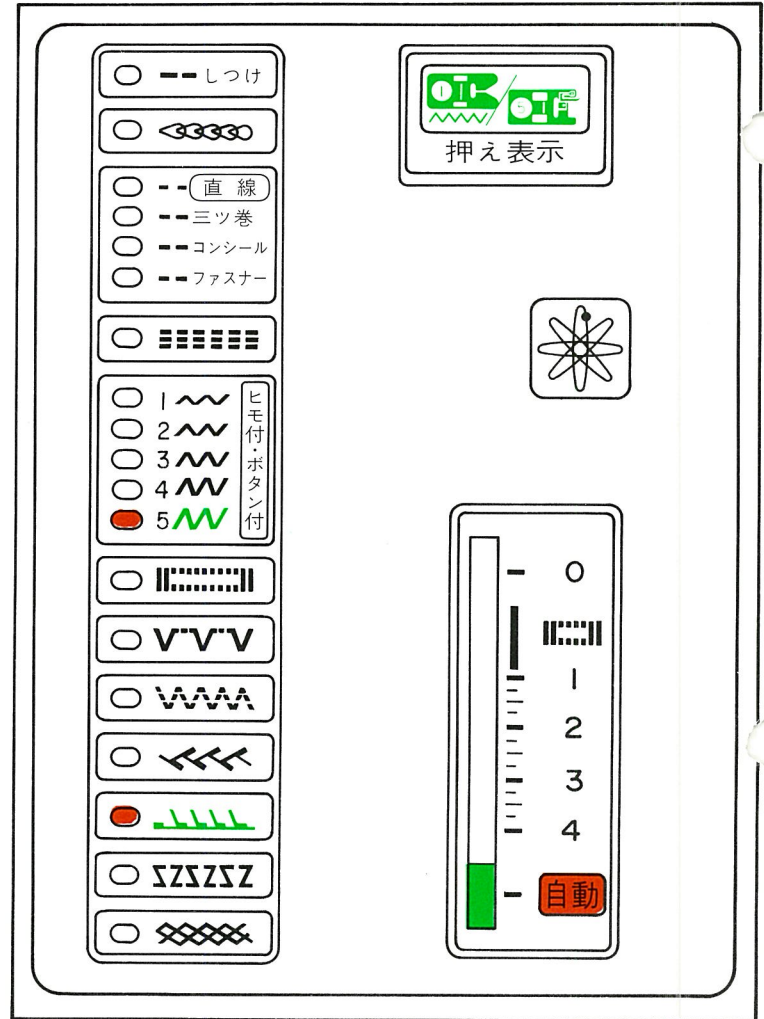
(1)セットのし方

- ①ステッチ選択ダイヤルを の5の振り幅に合わせます。また、 に合わせます。
- ② にセットした時の押え金は①の押え金または⑤の押え金を使います。 にセットした時の押え金は⑤の押え金を使います。
- ③送り調節ダイヤルを **自動** に合わせます。
- ④ドロップフィードは に合わせます。

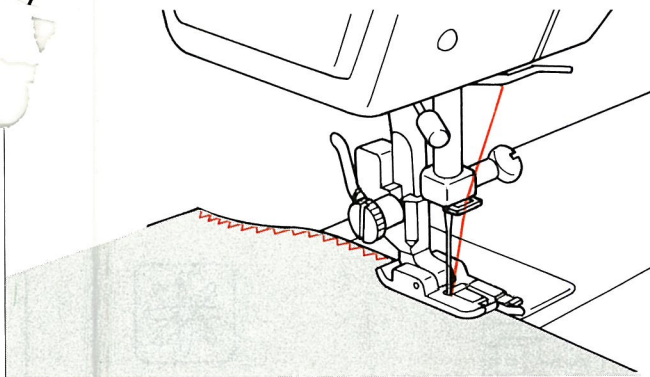



①ジグザグ押え

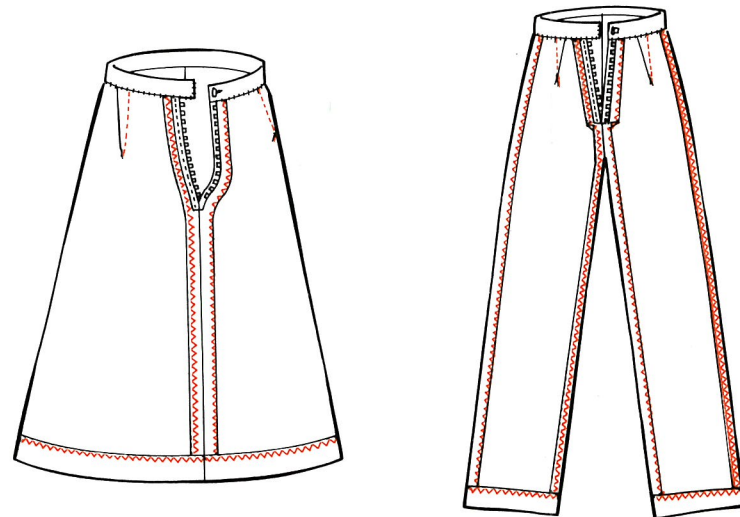
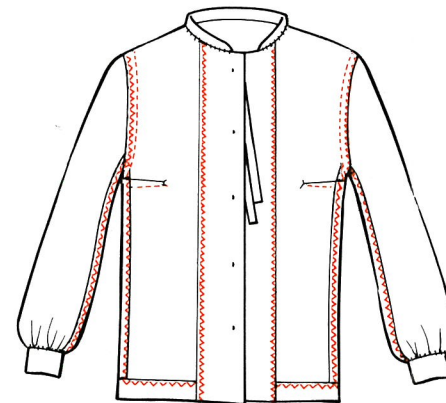
⑤裁ち目かがり押え



応用例







縫いはジグザグ縫い(振幅5)と  が適します。(自動) 振り幅は必ず5にし針が裁ち目をかがろうとする布地の端すれすれにくるように布地をセットします。
(糸調子はジグザグ縫いの21ページを参照。)

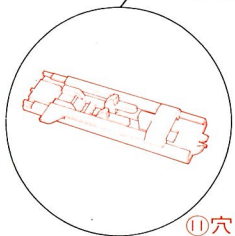
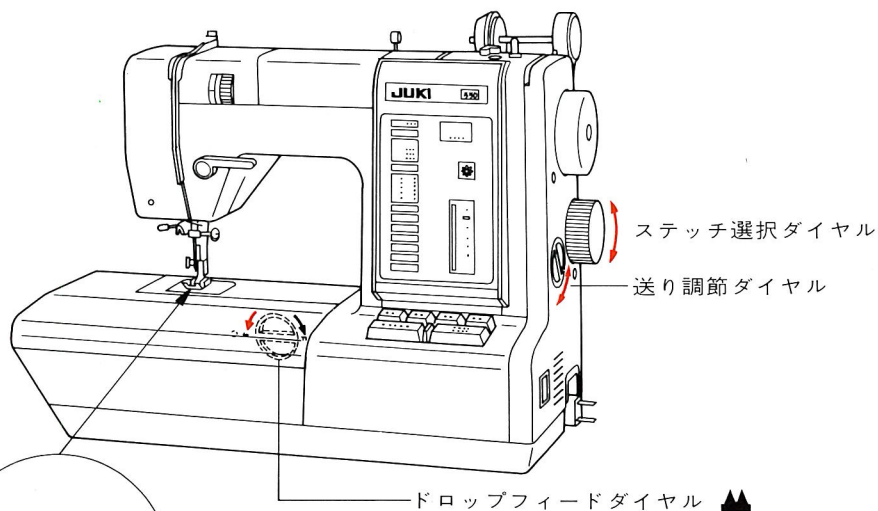
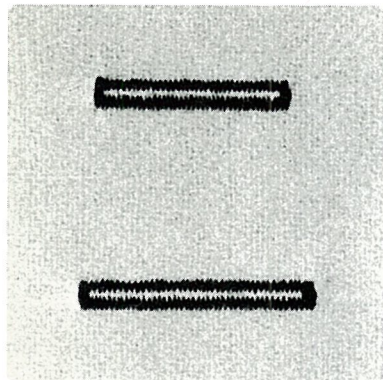


自動ボタン穴かがり

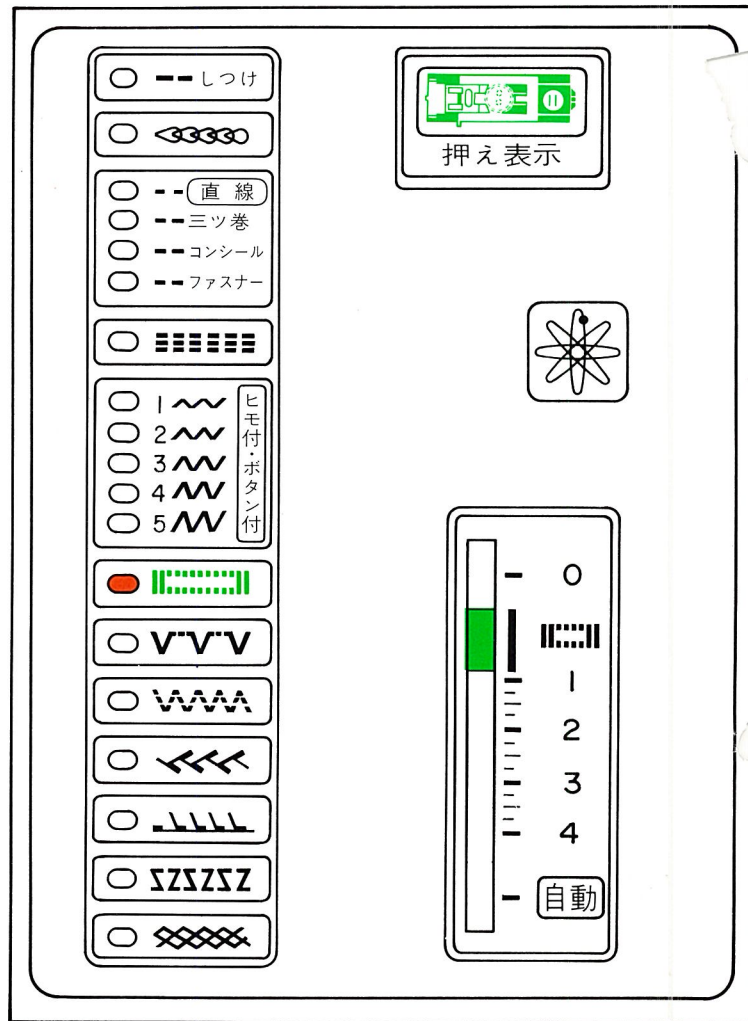
手縫いするとたいへん手間のかかるボタン穴かがりが自動的にできます。ジャージー、トリコット等の伸縮性の素材に穴かがりする場合は、素材の下に薄い紙をひくと美しい穴かがりができます。

(1)セットのし方

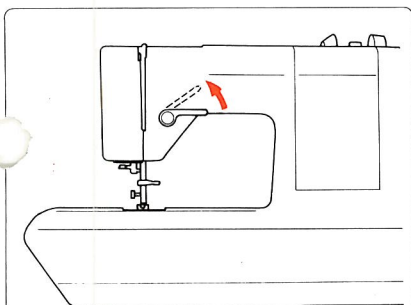
- ①ステッチ選択ダイヤルを  に合わせ、押え表示窓に表示された  の押え金を使います。
 - ②送り調節ダイヤルを  に合わせます。
 - ③ドロップフィードは  に合わせます。
- ※上糸調子1～3位で縫うときれいに出来ます。



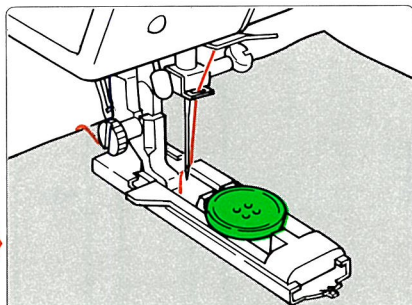
①穴かがり押え



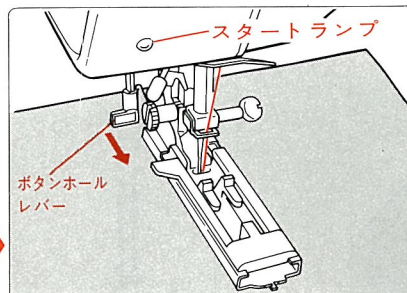
(2)縫い方 1. ボタン穴かがり



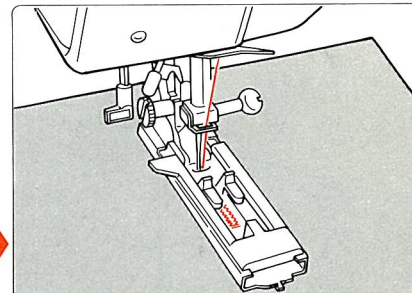
① 押え上げレバーを上げて押えを上げます。上糸と下糸を後側に15センチほど引き出しておきます。



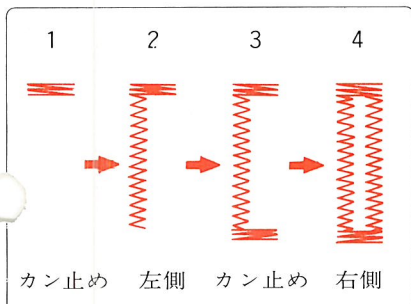
② ボタン穴かがり押えにボタンをセットします。ボタン穴かがりの長さは押えにセットするだけで自動的に決まります。穴かがり押えにセットしたボタンをはずします。



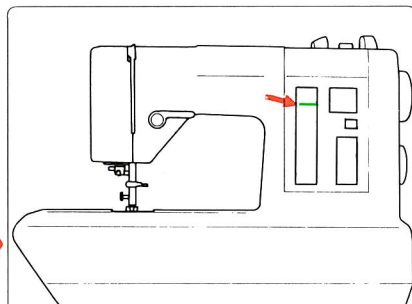
③ ボタン穴かがりレバーを下に下ろし手前に引いて面部カバーにスタートランプ(赤)がつくのを確認します。



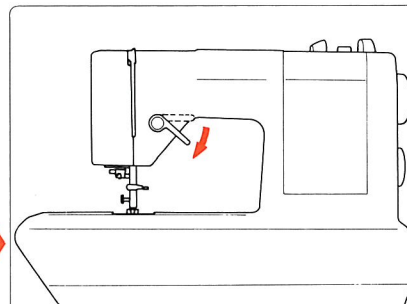
④ ミシンをスタートすると自動的に動いて⑤のような順序で縫えます。



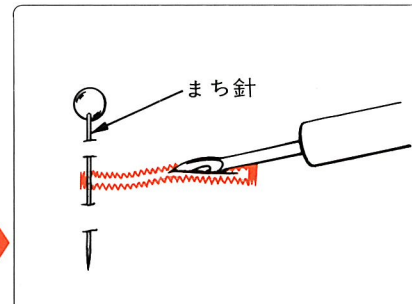
⑤ 4まで縫ったらミシンを止めます。



⑥ ステッチ選択ダイヤルを直線に直し、布地を固定したまま、送り0で2~3針縫います。

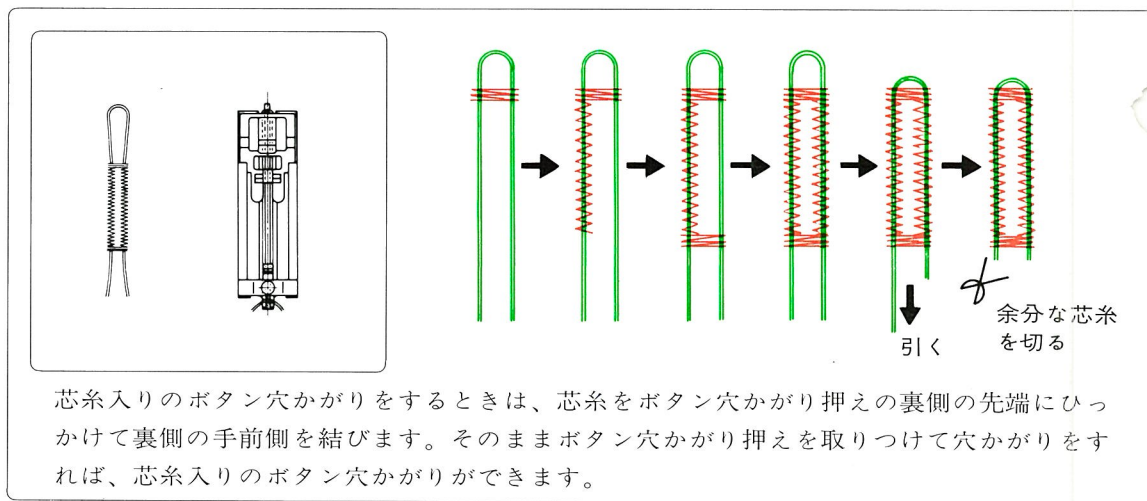
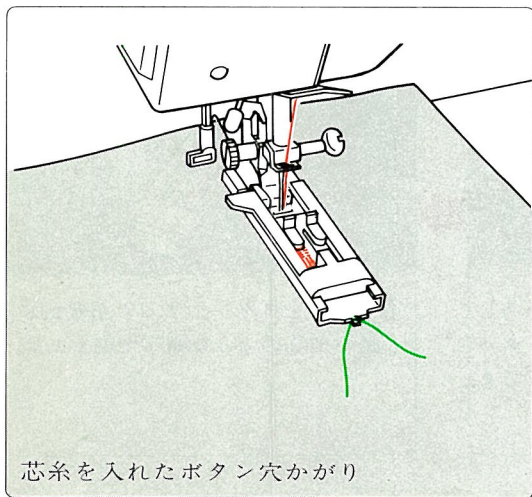


⑦ 縫い終わったら糸切レバーを下に下ろします。



⑧ リッパー(糸ほどき)で縫い糸を切らないように中央の布地を切り開きます。穴かがりの端にまち針をさしておく、切り開きすぎる心配がありません。

2. 芯入りボタン穴かがり——芯糸を入れて縫うとボタン穴の伸びを防ぎ、丈夫なボタン穴かがりができます。
 芯糸はレース糸、または穴糸を使用します。



芯糸入りのボタン穴かがりをするときは、芯糸をボタン穴かがり押えの裏側の先端にひっかけて裏側の手前側を結びます。そのままボタン穴かがり押えを取りつけて穴かがりをするれば、芯糸入りのボタン穴かがりができます。

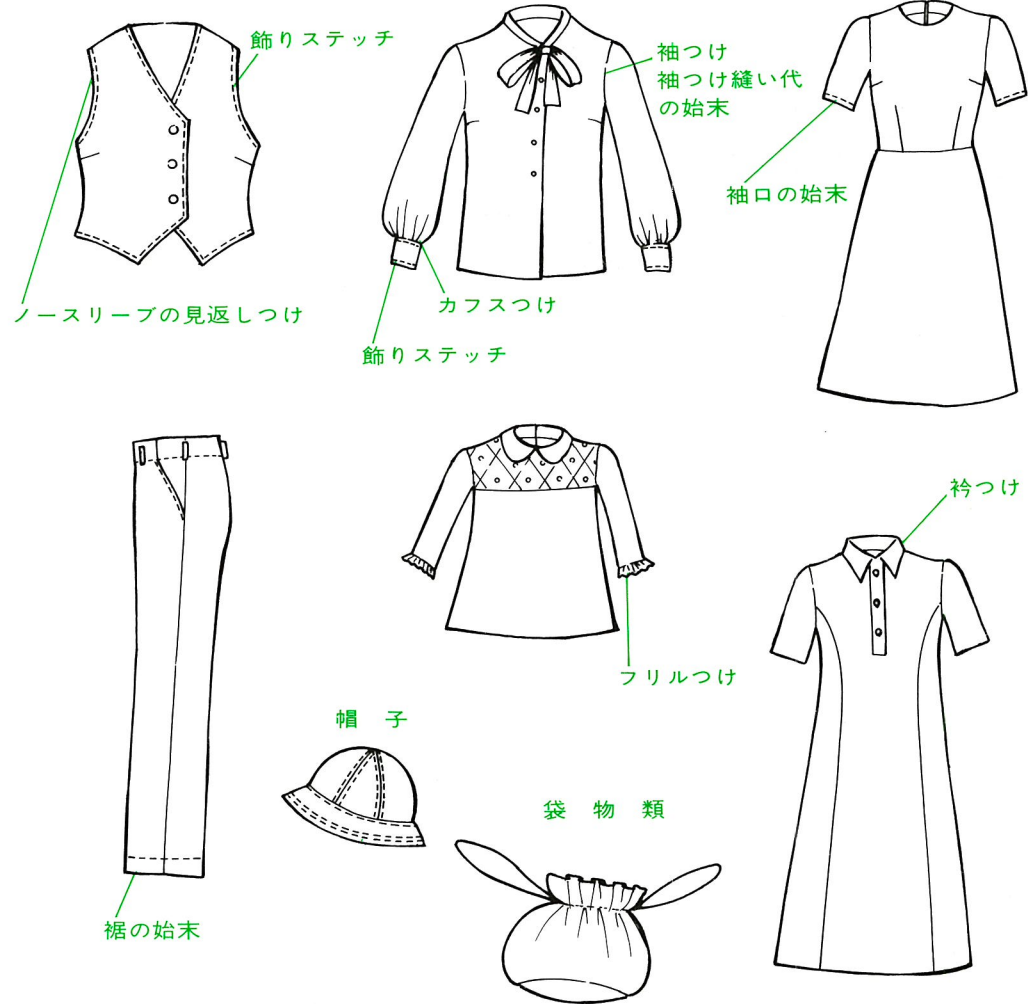
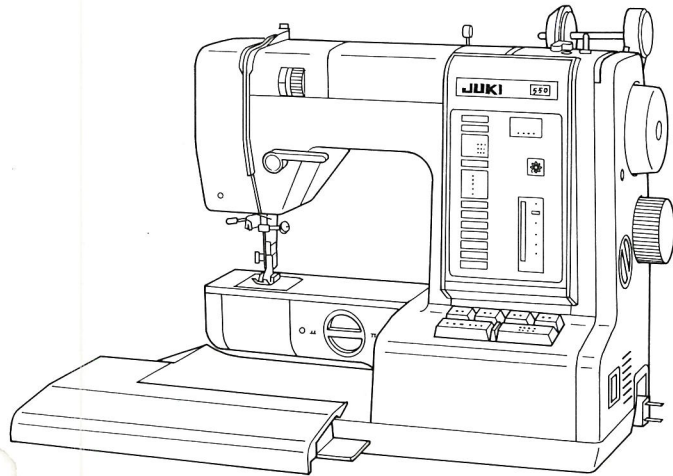
※メリヤス、ジャージーなどのボタン穴かがりをするときは、布地の裏側に伸びにくい接着芯をはって使用します。

※ボタンの大きさを間違えたり、途中で糸が切れたりした場合は、糸を針からぬいて、最初のカン止めの位置まで空縫いをして、最初の位置に戻して改めて縫います。

筒縫い(フリーアーム)

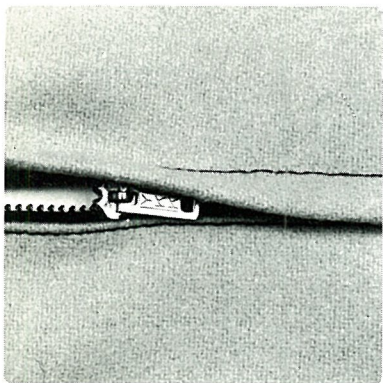
カフスつけ、ノースリーブの見返しつけ、袖口、スポンの裾、その他、筒型になった部分を縫うのに大変便利です。

平ベットからフリーアームにします。
(セットのし方は7ページを参照)



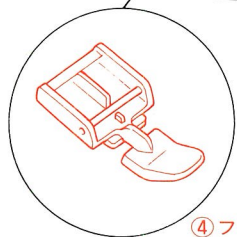
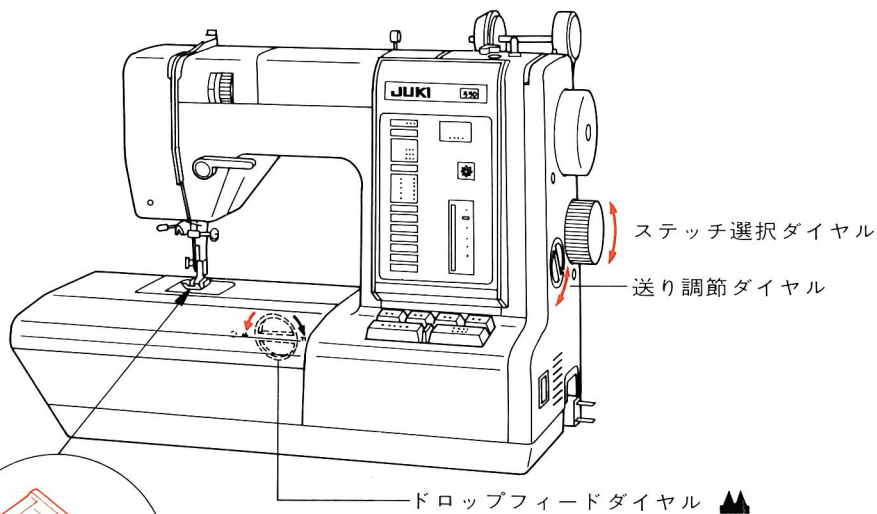
ファスナーつけ

婦人用、女児用は前明き、後明き共に右身頃が上になります。 脇明きは前身頃が上になります。
ファスナーつけは左右共に止めよりスライダーの方にミシンをかけます。



(1) セットの仕方

- ①ステッチ選択ダイヤルを **---** ファスナーに合わせ、押え表示窓に表示された④の押え金を使います。
- ②送り調節ダイヤルは1~4または**自動**の目盛を選びます。
- ③ドロップフィードは **▲▲** に合わせます。



④ファスナー押え

○ --- しつけ

○ <33330

○ --- 直線

○ --- ミツ巻

○ --- コンシール

● --- ファスナー

○ ■■■■■■

○ 1 ~~~~~ ヒモ付・ボタン付

○ 2 ~~~~~

○ 3 ~~~~~

○ 4 ~~~~~

○ 5 ~~~~~

○ ■■■■■■

○ V V V

○ W W W

○ <<<<<

○ <<<<<

○ S Z S Z S Z

○ <<<<<

押え表示

④

0

1

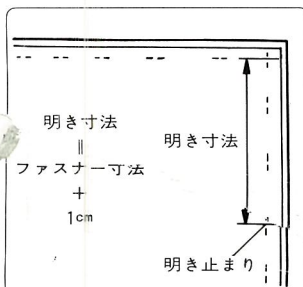
2

3

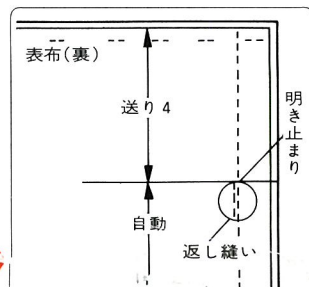
4

自動

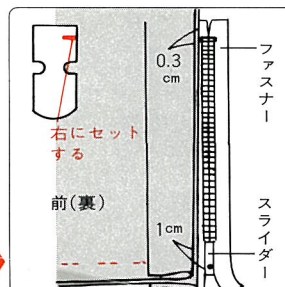
(2)縫い方(例・脇明きファスナーつけ)



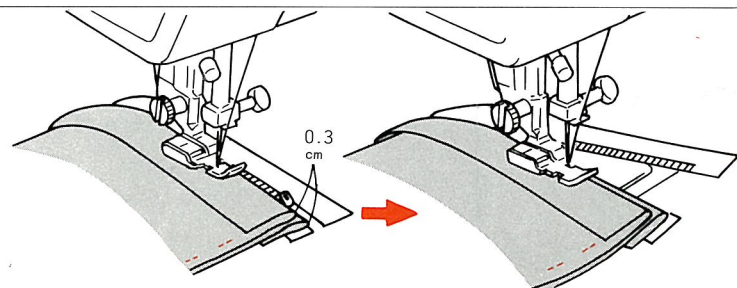
①ファスナー明きの寸法をたしかめます。



②布地を中表に合わせ布端より明き止まりまで4の送り(大きな縫い目)で縫い、明き止まりで自動送りに変えて返し縫いをし、所定の位置まで縫います。

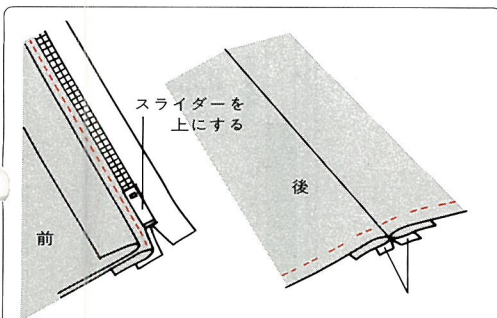


③縫い代をきっちりわり、後ろの縫い代を0.3センチ出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をムシのきわに当てます。

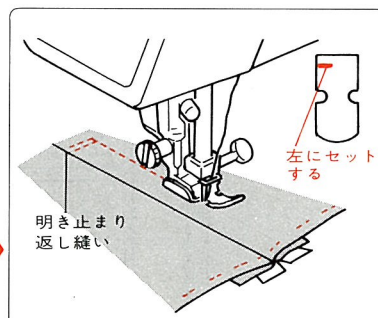


ファスナー押えの右側にセットし押えの端をムシのきわに当て後脇にファスナーの片方をつけます。

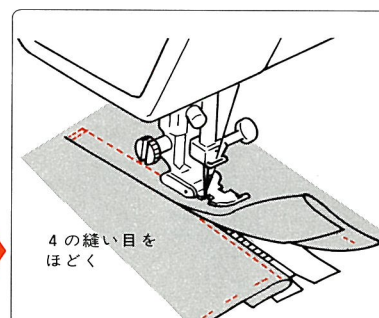
ファスナーの端から5センチ程手前でいったんミシンを止め、はずみ車を回して針を布地に刺し、押えを上げて、ファスナーのスライダーを図のように下げ、押えを下ろして端まで縫い止めます。



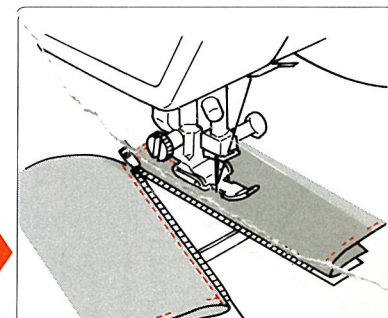
④後脇が縫い終わったら、スライダーを上を引き上げて、さらに上に倒し、前布をファスナーの上にかぶせます。



⑤ファスナーを前脇につけるには明き止まりを返し縫いで、押えの端をスライダーのきわに当て、ミシンをかけます。



⑥ファスナーの端から5センチ程手前でいったんミシンを止め、はずみ車を回して針を布地に刺し、押えを上げて②で縫った大きな縫い目の部分のみほどきます。



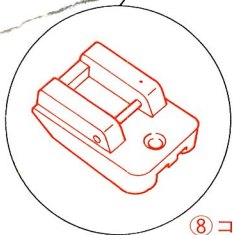
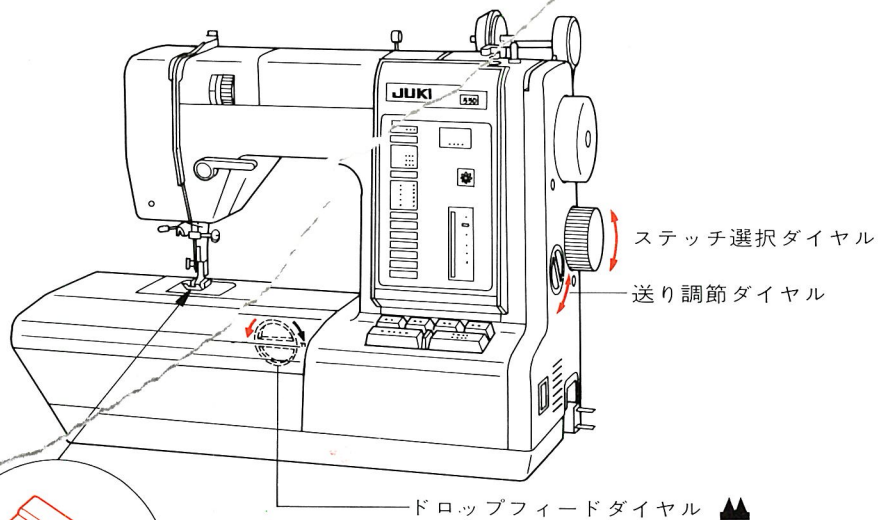
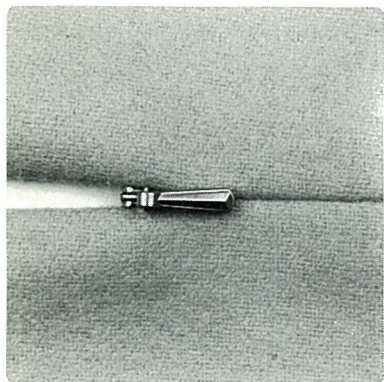
⑦スライダーを押えより下までおし開き、押えを下げて、端まで縫い止めます。

コンシールファスナーつけ

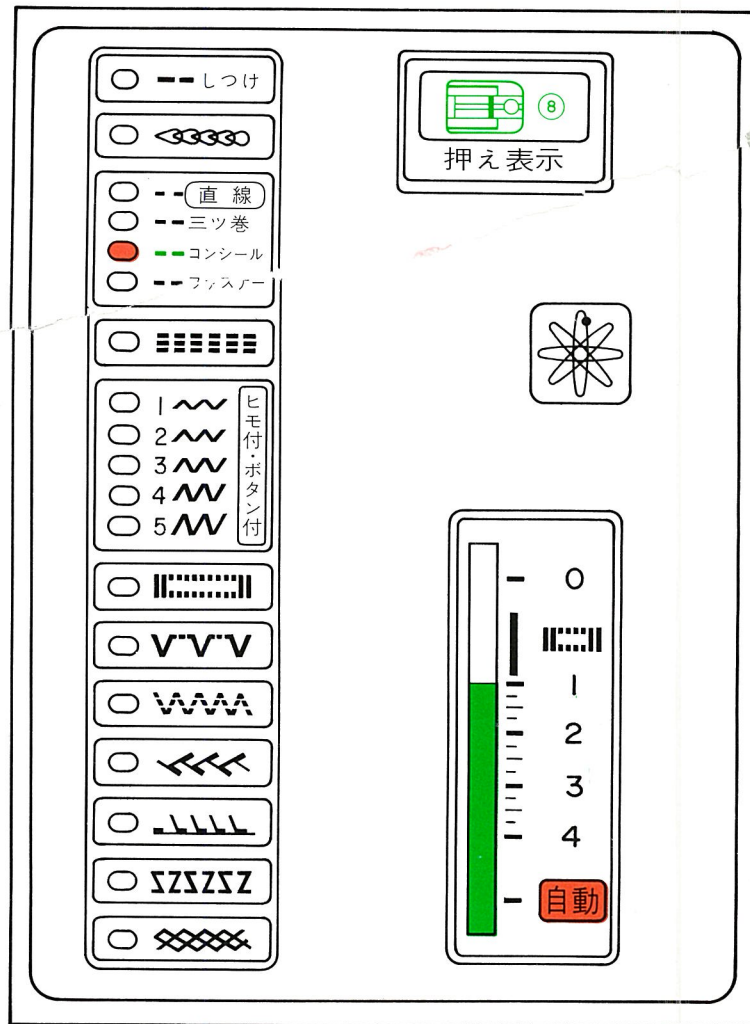
コンシールファスナーの特長は、ファスナーの縫い目が布地の表に現れず、つき合わせの状態での開きの始末が出来ますので、ドレッシィな縫製が出来ます。△シは金具のものと、樹脂性のものと2種類あります。

(1) セットの仕方

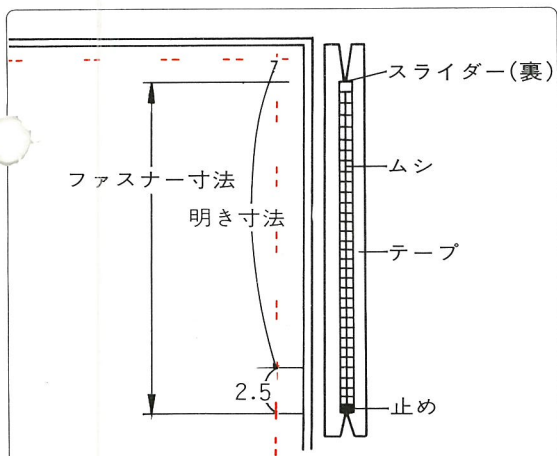
- ①ステッチ選択ダイヤルを **---** コンシールに合わせ、押え表示窓に表示された **⑧** の押え金を使います。
- ②送り調節ダイヤルは1~4または **自動** の目盛を選びます。
- ③ドロップフィードは **▲▲** に合わせます。



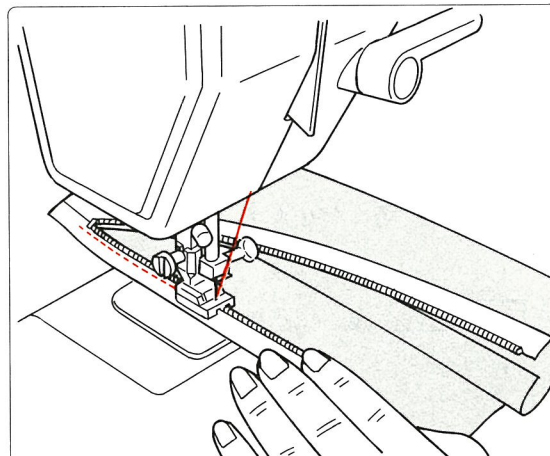
⑧コンシールファスナー押え



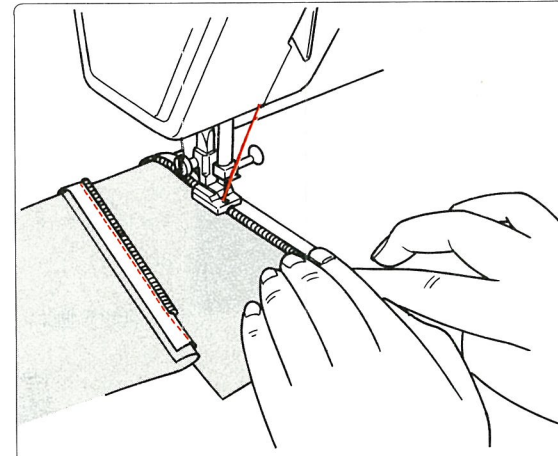
(2)縫い方——コンシールファスナーはファスナー寸法より明き寸法は短くなりますので、図を見て正しく明き寸法をきめます。



- ①明き止まりまで4の送り（大きな縫い目）で縫い、明き止まりで自動送りに変えて返し縫いをし、所定の位置まで縫います。
- ②縫い代をきっちりわります。
- ③明き止まりまで①で縫った大きな縫い目の部分のみほどこきます。



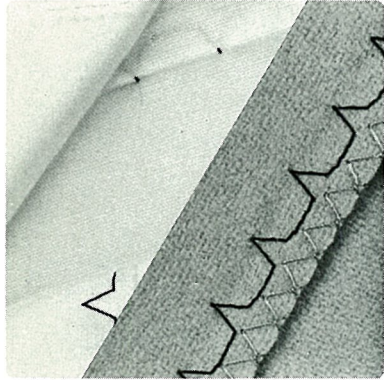
- ④一方の折り山の裏側にコンシールファスナーの片方を表側に合わせ、図のようにファスナーのムシを押えの溝にきっちり合わせ指でムシを立てるようにして、ムシのきわにミシンをかけます。



- ⑤左右の表布がきっちり合うようにテープに縫い代を止めつけ、一方の折り山とムシを中表に合わせ、押えの溝にムシを立てるように合わせ一方を縫い合わせます。
- ⑥スライダーを中より出し上に上げます。

ブラインドステッチ(めくら縫い)

スポンやスカート、ブラウス、シャツなど、袖口や裾をまつときに使います。

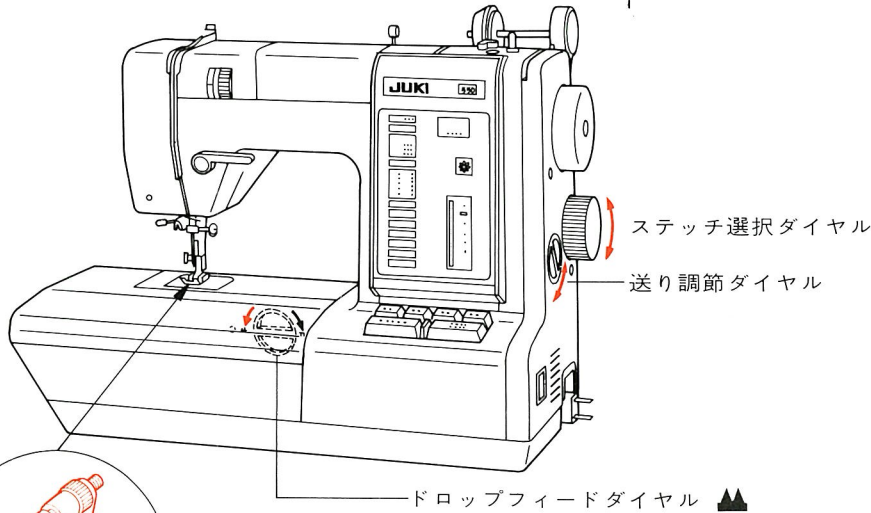


(1) セットの仕方

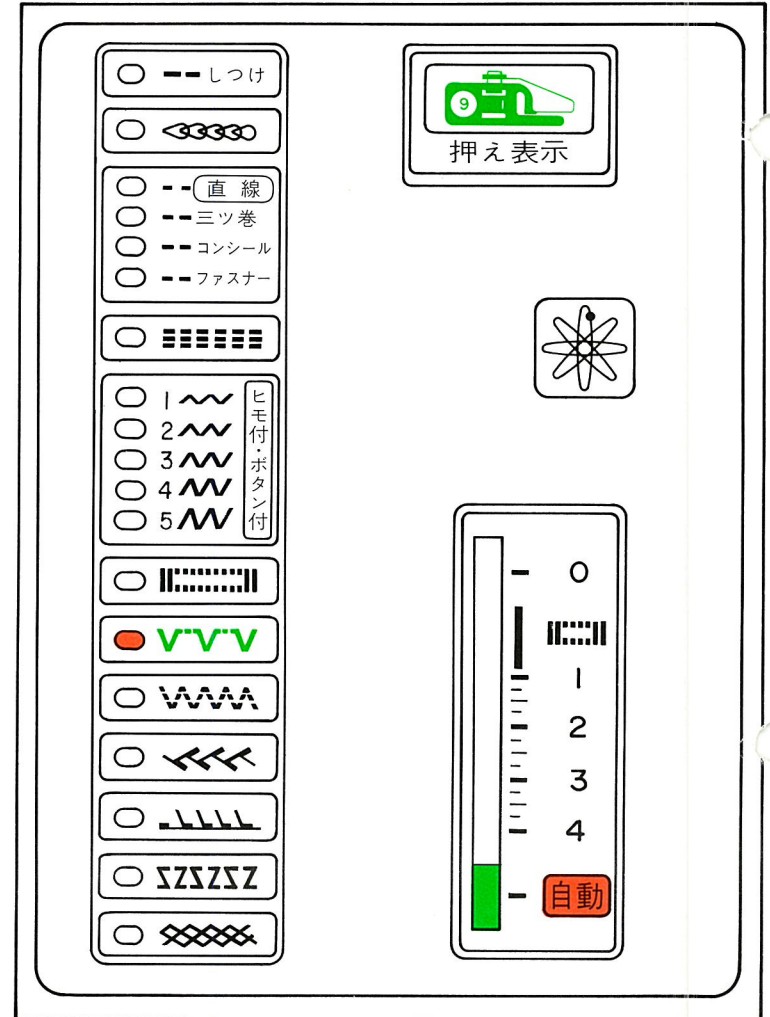
- ①ステッチ選択ダイヤルを **VV** に合わせ、押え表示窓に表示された **9** の押え金を使います。
- ②送り調節ダイヤルは **自動** は合わせます。
- ③ドロップフィードは **▲** に合わせます。
- ④押えにセットされているネジは

手前にまわすと 深くなります。

向う側にまわすと 浅くなります。

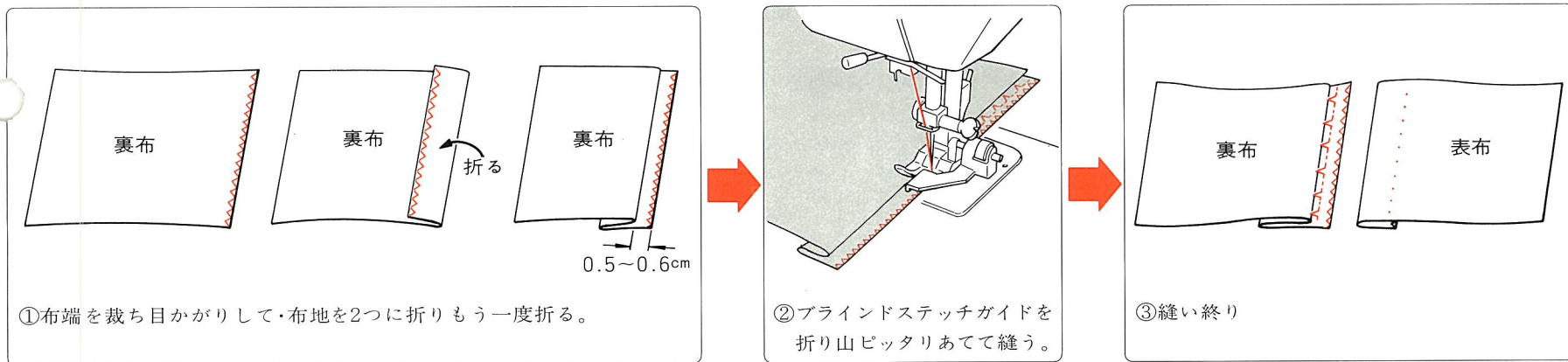


⑨ ブラインドステッチ押え

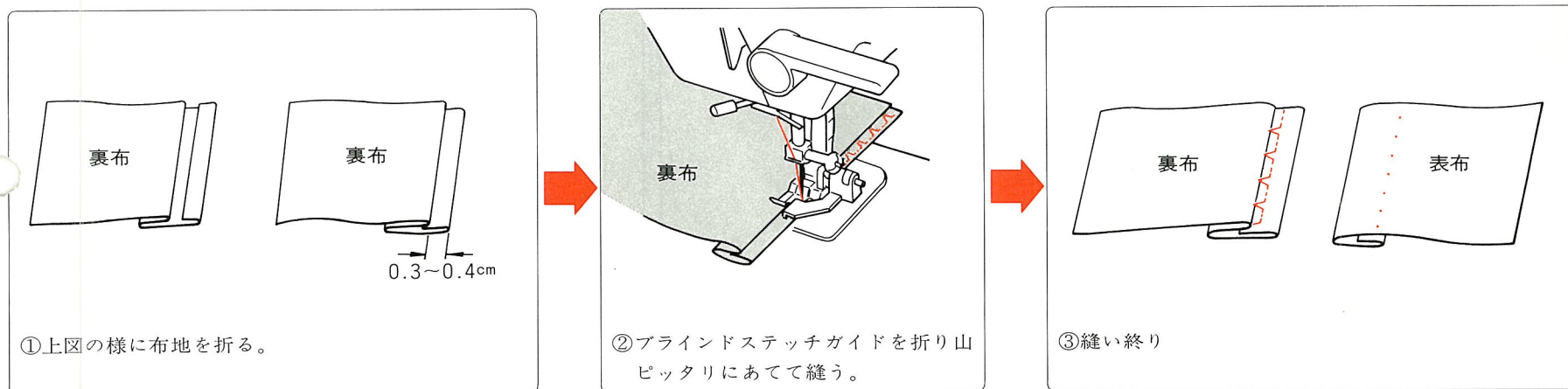


(2) 布地の折り方と縫い方

普通地・厚地の場合



薄地の場合



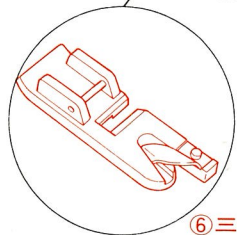
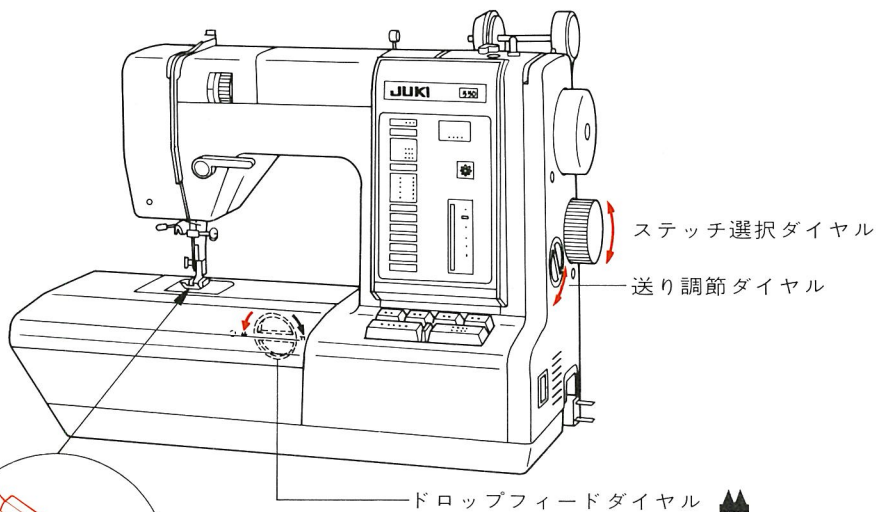
※使用糸は布地の色と同色が最適です。左側におとす針が必要以上にかかりすぎると表に出る縫い目が大きくなりきれいに仕上がりにません。

がきれいに始末出来ます。シャツ、ブラウスの裾、フリルやハンカチの縁の始末などに使います。

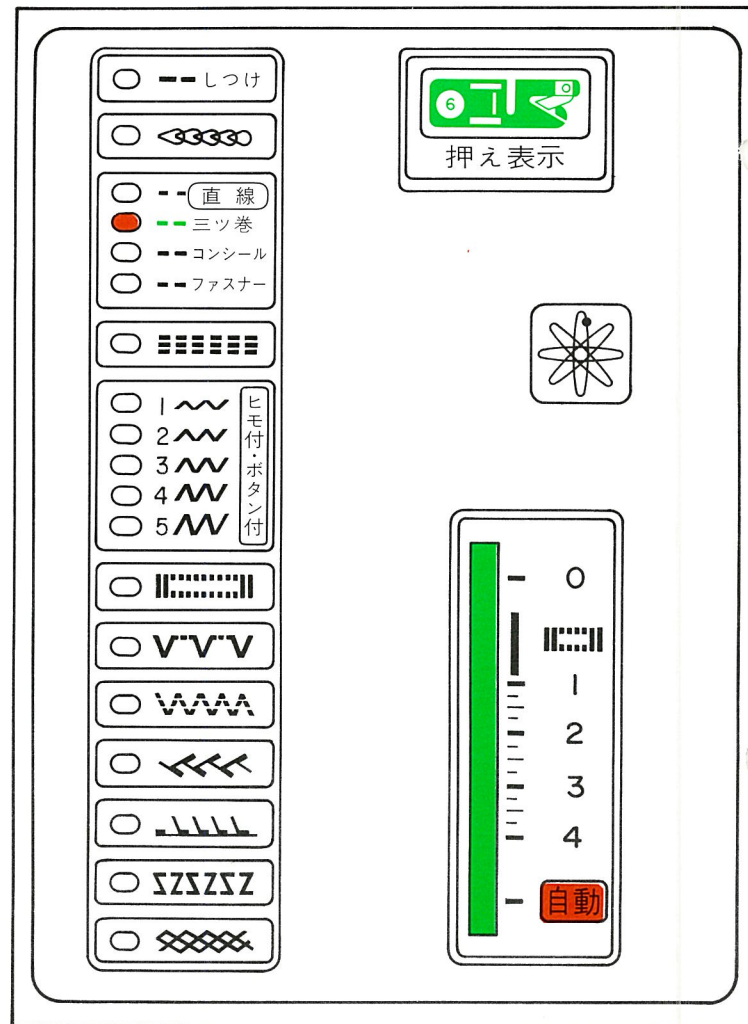
裏を見て縫いますので糸調子は表裏共に美しい縫い目に調節します。

(1)セットの仕方

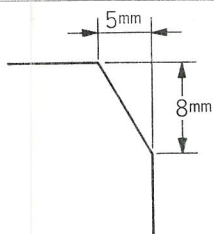
- ①ステッチ選択ダイヤルを **---** 三ツ巻に合わせて
押え表示窓に表示された **⑥** の押え金を使いま
す。
- ②送り調節ダイヤルは0~4または**自動**の目盛
を選びます。
- ③ドロップフィードは **▲▲** に合わせます。



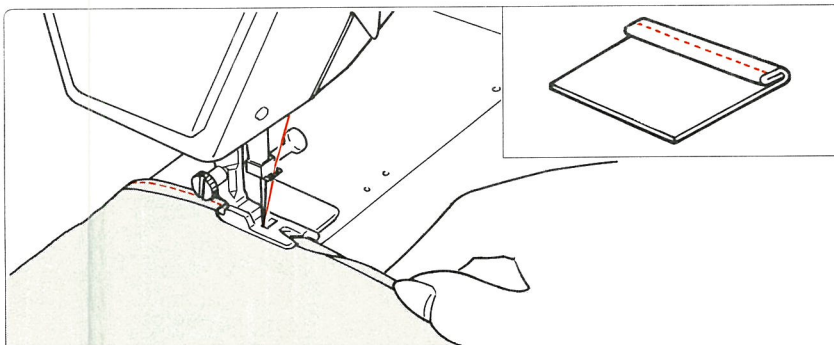
⑥三ツ巻き押え



(2) 縫い方



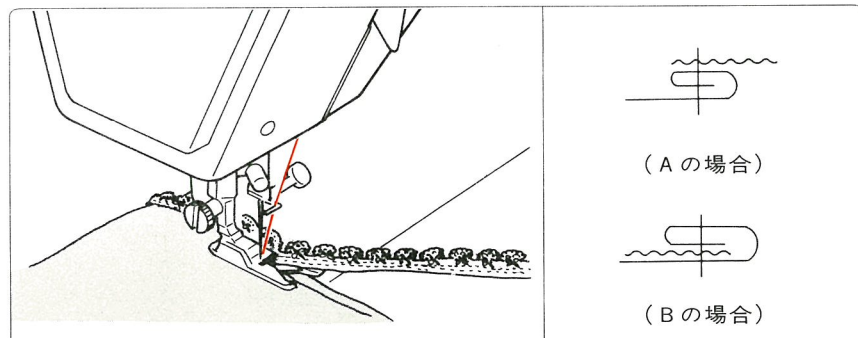
布地を巻き込みやすくするために角を少し切ります。



- ①下糸を10センチ程引き出しておきます。
- ②三ツ巻きのうず状の溝の中に布地を針のとどくところまで入れてから、押えを下ろします。
- ③上下の糸端を左手で引き、手ではずみ車を3～4回まわし正しく巻きましたら右手の親指と人さし指で布地をつまみ、常に適量がくり入れられるようにして縫います。

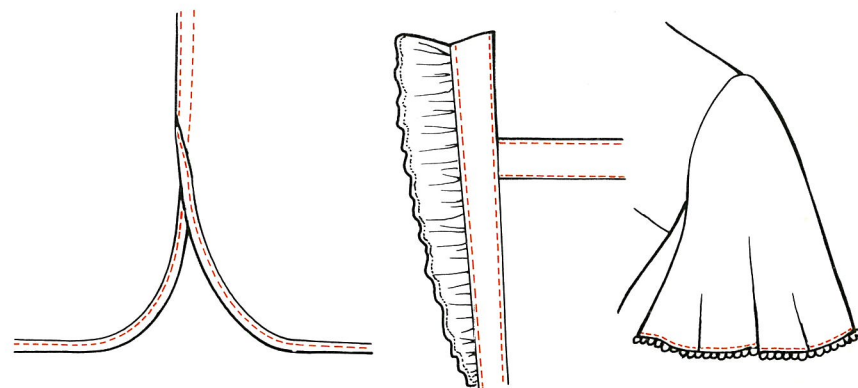
※ジグザグ縫いで三ツ巻き縫いをする時は、ジグザグ縫いの振り幅2にセットして、直線縫いと同じ方法で縫います。
ハンカチ、スカーフ等の縫い代をかけるのに最適です。

(3) レースつけの場合



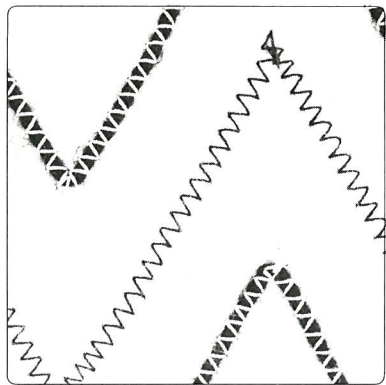
- ①布地を三ツ巻きにしながら、レースを布地の上から縫いつけていく方法 (A)
- ②レースを三ツ巻きと布地との間におき、布地を三ツ巻きにしながら、布地とレースを縫いつける方法 (B)

応用例



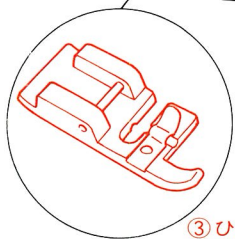
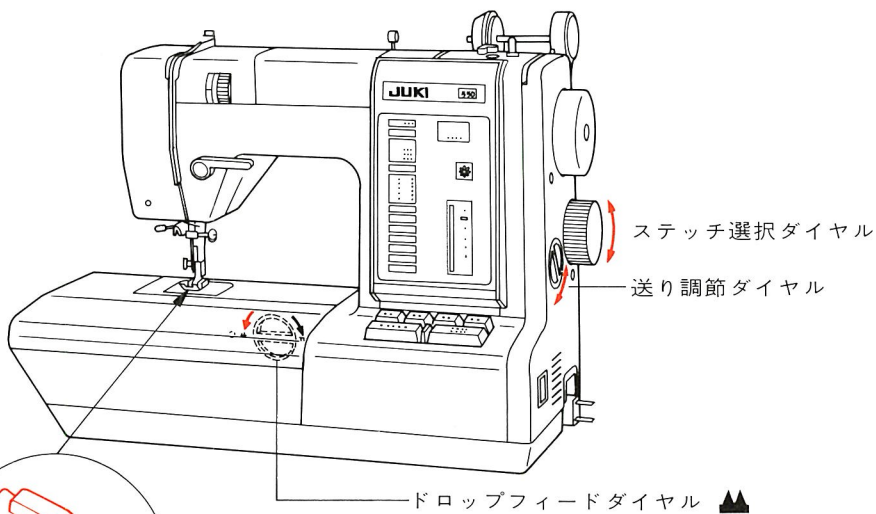
ひもつけ(コードししゅう(コーティング))

毛糸、ししゅう糸、穴糸などのひもを使い、図案にそってジグザグ縫いで止めつけるものです。子供服、エプロンインテリア小物などに応用します。



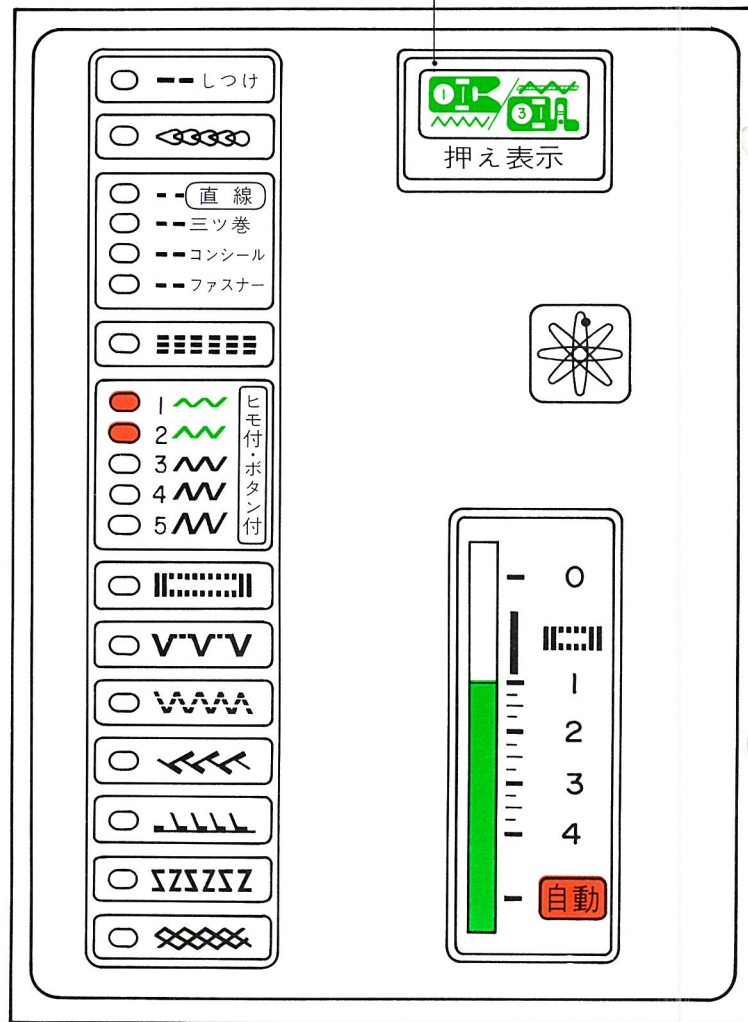
(1)セットの仕方

- ①ステッチ選択ダイヤルを の1・2のいずれかに合わせ、押え表示窓に表示された③の押え金を使います。
- ②送り調節ダイヤルは1~4または**自動**の目盛を選びます。
- ③ドロップフィードは に合わせます。

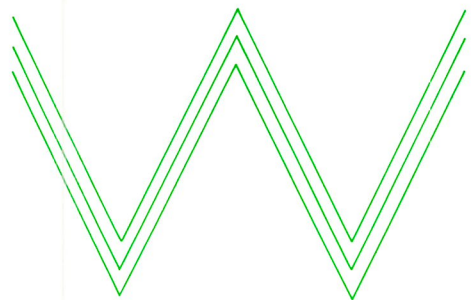


③ひもつけ押え

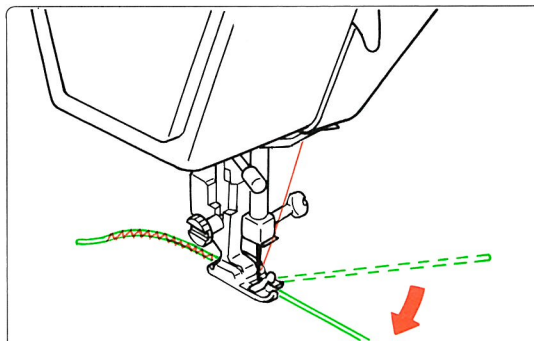
③の押え金を使います。



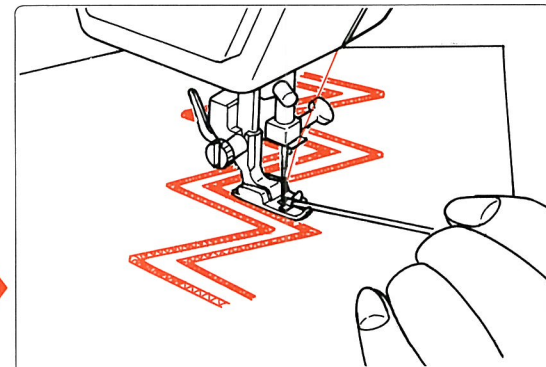
(2) 縫い方



① 図案をかきます。

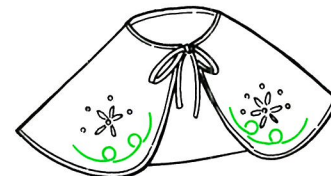
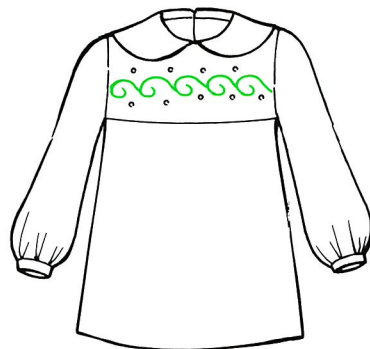
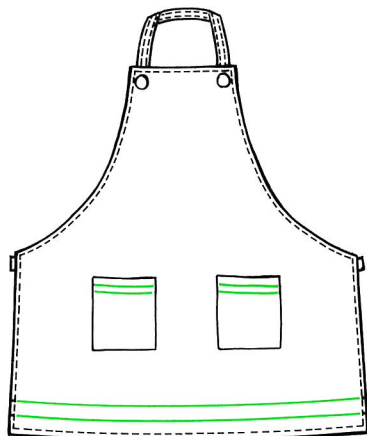


② ひもつけ押えのバネの下にひもを通し、ひもの先端はひもつけ押えの裏にある溝にはめてから押えを下げます。



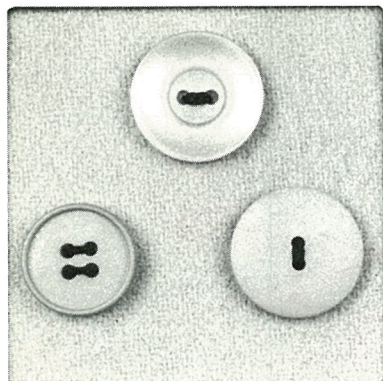
③ 図案にそって縫います。縫い始めと縫い終りの上糸は布地の裏に引き出して結び切ります。

応用例



ボタンつけ

婦人服、子供服、シャツ、ブラウスなどのボタンをつけるのに使います。糸端をきちんと結んでおけば丈夫にでき、大変便利です。

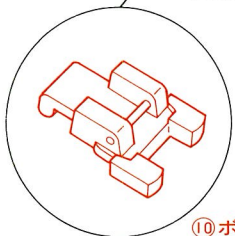
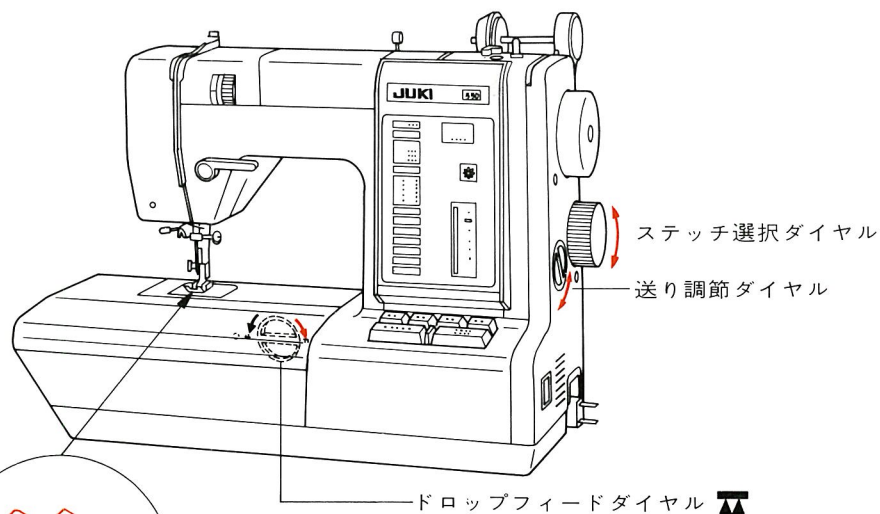


(1)セットのし方

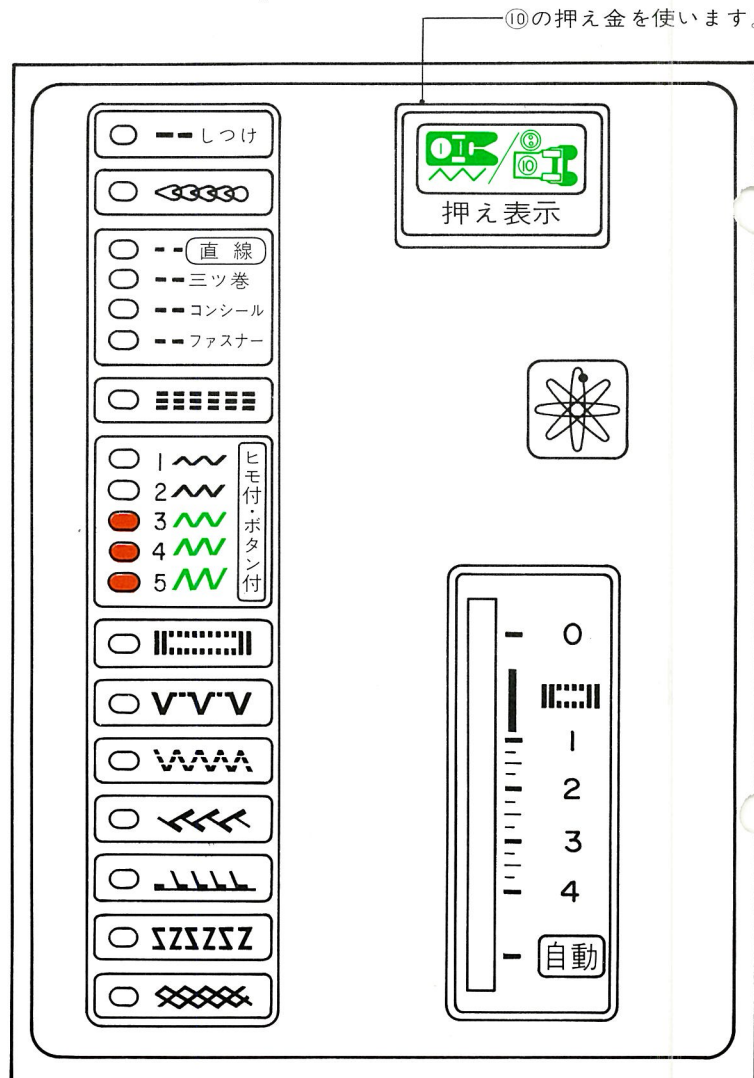
①ボタン穴の間隔を計り、ステッチ選択ダイヤルを **W** の3・4・5のいずれかの振り幅に合わせ、押え表示窓に表示された⑩の押え金を使います。

②ドロップフィードは **△** に合わせます。

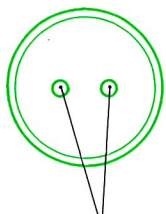
※自動糸切りは使用しません。



⑩ボタンつけ押え

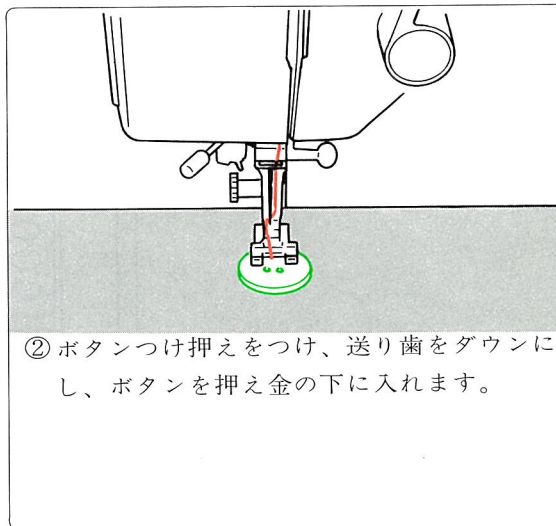


(2) ボタンつけの方法①

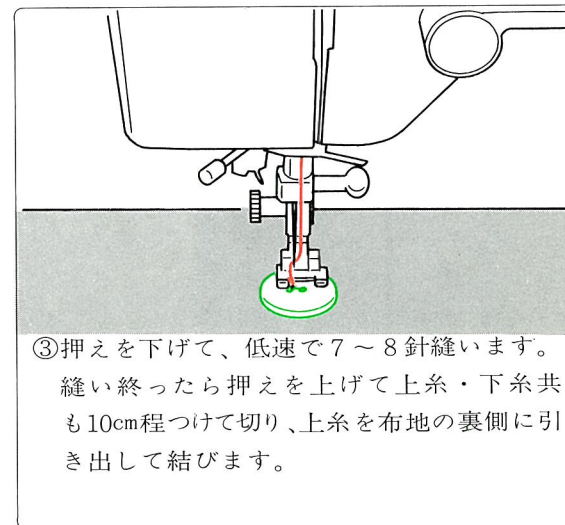


穴の中心から穴の中心
までの寸法を計る

① ボタン穴の間隔を計ります。ミシンの振り幅は3・4・5とありますからボタン穴の間隔に合わせてステッチ選択ダイヤルを回します。

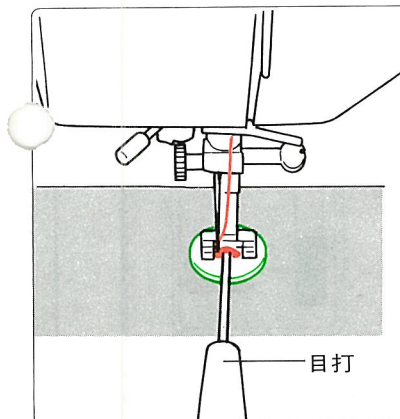


② ボタンつけ押えをつけ、送り歯をダウンにし、ボタンを押え金の下に入れます。



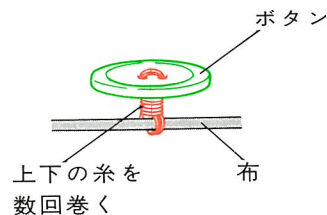
③ 押えを下げ、低速で7～8針縫います。縫い終わったら押えを上げて上糸・下糸共も10cm程つけて切り、上糸を布地の裏側に引き出して結びます。

ボタンつけの方法②



① ボタンつけの足を必要とする場合は、ボタン穴の中間に目打の先などをのせ糸を浮かせて縫います。

目打



② 7～8針縫ったら糸を20cm程つけて切り上下の糸を布地とボタンの間で数回巻いてから布地の裏側で結びます。

上下の糸を
数回巻く

ボタン

布